

日本最大規模のレザープロダクトコンペティション

Japan Leather Award 2017

事前エントリーが6/15よりスタート

一般社団法人日本皮革産業連合会(岩崎幸次郎会長)では、ファッション産業である皮革産業において、その時々の一般消費者ニーズに即応できる新たな発想・表現のできる人材の発掘と育成が重要だと考え、人材養成事業のひとつとして「Japan Leather Award」(ジャパンレザーアワード)を主催している。今年で10周年という大きな節目を迎える同アワードは、日本最大規模のレザープロダクトコンペティションとして、回を重ねるごとにその認知度と注目度が高まっている。今回「Japan Leather Award 2017」もいよいよ開始し、6月15日よりコンペティションの事前エントリーがスタートした。(16めん広告掲載)

10周年を迎え、募集部門と賞が新たに

「Japan Leather Award 2017」の主だった特徴は次の通り。

①募集部門の変更

これまでの募集部門で靴とバッグのアイテムがメンズとレディースに分かれていたものを統合し、フットウェア部門、バッグ部門、ファッション部門、フリー部門、学生部門の合計5部門に変更。

②賞の増設

これまで各部門に1つだった部門賞が増設された。学生部門以外の4部門には、新たな市場形成の可能性を評価する「フューチャーデザイン賞」と、優れた商業的な価値を評価する「ベストデザイン賞」がそれぞれ設けられ、該当作品には賞金10万円とトロフィーが贈られる。学生部門は最優秀賞のみで、同じく賞金10万円とトロフィーを贈呈。グランプリは前記の9賞の中から最も優れた作品が選ばれ、賞金30万円とトロフィーが贈られる。また、副賞として、販売サポート「プロモーションビデオ制作」や「雑誌掲載」のいずれかが選べる特典がある。

③審査方法

1次審査を大阪の阪急うめだ本店「阪急うめだホール」で行い、全応募作品から100作品を選出、2次審査を東京の「マーチエキュート神田万世橋」にて開催し、プロ審査員11名の審査と協議により各賞・グランプリを決定する2段階審査を採用。これとは別に、1次・2次審査会場への一般来場者による人気投票を

行い、大阪・東京会場の人気ナンバー1作品も選出される。

④応募者限定イベント開催
皮革関連業界内外の交流をより深める目的として、懇親の場を兼ねた交流会「レザークラフトミューティング」を、東京会場にて開催する。会場では参加者のプロフィールブックを配布するとともに、PRのためのインフォメーションスペースも設ける予定。

⑤表彰および受賞作品の展示
各賞の受賞者、関係者を招き、阪急うめだ本店9階「祝祭広場」にて、表彰式が開催される。グランプリは表彰式当日に発表され、特別審査員のドン小西氏がナビゲーター、プレゼンターとして参加する。会場には、

各賞、各賞2位、大阪・東京会場での人気ナンバー1の作品、合計20作品が展示される。

また、来年1月には、阪急うめだ本店10階「うめだスーク」において、受賞作品を含む20作品が1週間展

示され、受賞者を掲載した小冊子も配布される。受賞作品の展示期間中、展示会開催先とそれぞれ販売条件などを締結のうえ、受賞作品などの販売を委託することも可能となっている。

「ひと惚れするような天然皮革素材を生かした作品を広く募集」

作品募集については、ブログ・アマを問わず誰でも無料で応募ができる。個人またはグループでの応募が可能で、応募作品のコンセプトやデザインは個人またはグループのオリジナルのものであり、国内事業者または個人によって製造(縫製など)された作品に限る。個人またはグループでの応募は、各部門1点まで応募可能。ただし、同じ作品を複数部門にまたがって応募することは不可。同じ型で色違いの作品を複数応募することも不可。

「日本のレザー産業は良くも悪くも伝統工芸的、クラフトマンシップ的な部分が残っている。販売面を考慮したうえで、革製品に対し、世の中の生活者の心に溜まっているものを可視化していくような本意の意味でのデザインを導入していかなければならぬと考えています。カバンのためのカバ

Japan Leather Award 2017 作品応募要項

部門

- フットウェア部門
- バッグ部門
- ファッション部門
小物(財布・名刺入れなど)、レザーウェア、ベルト、手袋、帽子、ブレスレットなど身につけるもの
- フリー部門
生活雑貨、インテリア、その他(フットウェア部門、バッグ部門、ファッション部門に該当しないもの)
- 学生部門
大学、専門学校などの学生だけが応募可能

各賞と審査基準について

- フューチャーデザイン賞(学生部門以外の4部門、各1名)
賞金10万円、トロフィー
《新たな市場形成の可能性を評価》
- ベストデザイン賞(学生部門以外の4部門、各1名)
賞金10万円、トロフィー
《優れた商業的な価値を評価》
- 学生部門 最優秀賞(1名)
賞金10万円、トロフィー
《独自性、新規性、発展性を評価》
- グランプリ(1名)
賞金30万円※1、トロフィー、副賞※2
《9賞の中で最も優れた作品》
※1…グランプリは各賞の中から選出されるので、賞金は実質40万円。
※2…「販売サポート」、「プロモーションビデオ制作」、「雑誌掲載」から1つを選択。

応募注意事項

- 個人またはグループでの作品応募が可能。
グループで作品応募する場合は、メンバー全員から同意を得たうえで代表者を定め、代表者名で応募。
- 応募作品のコンセプトやデザインなどは個人またはグループのオリジナルのものであり、国内事業者または個人によって製造(縫製など)された作品に限る。
- 個人またはグループでの応募は、各部門1点まで応募可能。ただし、同じ作品を複数部門にまたがって応募することは不可。同じ型で色違いの作品を複数応募することも不可。
- 国産のなめし革、または、エキゾチックレザー(ワシントン条約に基づき正しく輸入された革)を作品表面積の60%以上を使用すること。

審査および結果発表

【1次審査】
日程:10月9日(月)・10日(火)/会場:阪急うめだ本店9F「阪急うめだホール」
審査員長・長濱雅彦氏、特別審査員・ドン小西氏の2名が審査し、全応募作品から100作品を選出。また、一般来場者(150名)に好きな作品1点を投票してもらい、大阪会場人気No.1の作品を決定。

【2次審査】
日程:10月28日(日)・29日(月)/会場:マーチエキュート神田万世橋
審査員長・長濱雅彦氏、特別審査員・ドン小西氏に、デザイナー、ディレクター、バイヤーなどで構成されたプロ審査員9名が加わり、審査後全員の協議によって、各賞、グランプリを決定。なお、協議の結果、各賞を該当なしとする場合もある。また、一般来場者(100名)に好きな作品1点を投票してもらい、東京会場人気No.1の作品を決定。

【結果発表】
1次審査通過の作品および大阪会場人気No.1の作品の発表は10月13日(金)、東京会場人気No.1の作品の発表は11月1日(木)に、オフィシャルサイトで行う。各賞、グランプリは11月29日(木)、阪急うめだ本店9F「祝祭広場」にて開催する表彰式で発表する。

受賞作品の展示
受賞作品は、阪急うめだ本店10F「うめだスーク」にて1週間展示される。展示期間中、展示会開催先とそれぞれ販売条件などを締結のうえ、受賞作品などの販売を委託することが可能。
※一般社団法人日本皮革産業連合会は、この委託販売には一切関与しない。

応募日程
【事前エントリー締切】7月31日(月)まで。
【本エントリー(作品応募)締切】9月8日(金)まで。
※作品応募予定者は事前エントリーが必須。

エントリー申し込み・問い合わせ先
一般社団法人日本皮革産業連合会 Japan Leather Award 2017 事務局
〒113-0031 東京都文京区根津1-1-19 9F(隣ザッツコーポレーション内)
☎03-3827-1991【オフィシャルサイト】http://award.jlia.or.jp/2017/

「ひと惚れするような天然皮革素材を生かした作品を広く募集」

作品募集については、ブログ・アマを問わず誰でも無料で応募ができる。個人またはグループでの応募が可能で、応募作品のコンセプトやデザインは個人またはグループのオリジナルのものであり、国内事業者または個人によって製造(縫製など)された作品に限る。個人またはグループでの応募は、各部門1点まで応募可能。ただし、同じ作品を複数部門にまたがって応募することは不可。同じ型で色違いの作品を複数応募することも不可。

「日本のレザー産業は良くも悪くも伝統工芸的、クラフトマンシップ的な部分が残っている。販売面を考慮したうえで、革製品に対し、世の中の生活者の心に溜まっているものを可視化していくような本意の意味でのデザインを導入していかなければならぬと考えています。カバンのためのカバ

「2009年アワードで受賞したグランプリの副賞で、自分の経験したところから出てくるもの、スケールの大きさが感じられる部分に注目します。また、デザインに込められた意味や、誰に向けて作られているのかといった、その作品の背景、ストーリー性を見ていきたい(長濱氏)」

「2009年アワードで受賞したグランプリの副賞で、自分の経験したところから出てくるもの、スケールの大きさが感じられる部分に注目します。また、デザインに込められた意味や、誰に向けて作られているのかといった、その作品の背景、ストーリー性を見ていきたい(長濱氏)」

「2009年アワードで受賞したグランプリの副賞で、自分の経験したところから出てくるもの、スケールの大きさが感じられる部分に注目します。また、デザインに込められた意味や、誰に向けて作られているのかといった、その作品の背景、ストーリー性を見ていきたい(長濱氏)」

「理念を持ってデザインし、制作された応募作品を単に展示するだけでなく、そういった作品が輝けるような場所、売り場と結びつけることもアワードの役目だと感じている。受賞した方々が皮革業界で活躍できるきっかけとなる事業として取り組んでいきたい(吉田氏)」

なお、応募要項については別表を参照。



アワード関係者の座談会の様子。左から、人材養成委員会委員長・吉田輝幸氏、特別審査員・ドン小西氏、審査員長・長濱雅彦氏、グランプリ受賞者で審査員の橋本太一郎氏、佐藤直人氏

「素材を使い、どういった技法・テクニックを駆使する」という一貫したものが見えると、その作品に説得力が出てくる。ひと惚れに近いが、その説得力を直感するようになっています。このアワードが、革製品のクリエイターの地位を高める登竜門として、皮革業界の「芥川賞」となるよう期待しています(佐藤氏)